



1 第49回通常総会の開催

第49回通常総会が、平成18年5月24日午後3時30分から東海大学校友会館において開催された。総会議長に森下副会長を選出し、議案審議を行った。

はじめに、平成17年度の事業報告並びに収支決算と平成18年度事業計画並びに収支予算について承認及び決定がなされた。

藤村会長が退任

就任以来4年になる藤村会長が本通常総会の終了時に退任することについて、第1回理事会において承認されたことが議長から報告された。藤村会長から退任のあいさつが行われた。

粕谷課長が祝辞と特別講演

ついで、来賓の環境省粕谷明博廃棄物対策課長から祝辞をいただいた後、「廃棄物処理施設の整備の促進について」の特別講演が行われた。

会長表彰



総会議長をつとめる森下副会長



退任のあいさつをする藤村会長



講演を行う環境省粕谷課長

永年、当工業会の事業活動に貢献された川崎重工業(株)の阿部幸生氏が会長表彰を受賞、藤村会長から賞状と記念品が贈呈された。

なお、総会終了後に例年行われていた懇親会は中止された。

2 理事会の開催

平成18年3月23日

平成17年度第1回 (書面)

- ・就業規則及び職員給与規程の一部改正について
- ・平成18年度収支暫定予算の議決の承認について



会長表彰を受けた阿部幸生氏

- ・正会員の退会の承認について

平成 18 年 4 月 19 日

平成 18 年度臨時（第 1 回）

- ・役員人事について

平成 18 年 5 月 11 日 平成 18 年度第 1 回

- ・理事交代の承認について

- ・役員人事について

- ・会長表彰について

- ・第 49 回通常総会議案等について

平成 18 年 5 月 22 日

平成 18 年度第 2 回（書面）

- ・国際環境整備研究委員会規程の一部改正について

- ・常任参与等の辞任及び分科会の退会について

平成 18 年 7 月 21 日

平成 18 年度第 3 回（書面）

- ・正会員の退会の承認について

- ・常任理事の辞任について

- ・理事の交代及び辞任について

- ・企画運営委員の辞任について

- ・分科会の退会について

平成 18 年 8 月 30 日

平成 18 年度第 4 回（書面）

- ・正会員の退会の承認、他について

平成 18 年 11 月 7 日

平成 18 年度第 5 回（書面）

- ・正会員の退会の承認について

- ・理事の交代の承認、他について

平成 19 年 2 月 29 日

平成 18 年度第 6 回（書面）

- ・正会員の退会の承認について

3 会員の退会及び社名、組織、役員、委員等の変更

平成 18 年は、公共事業、なかでも廃棄物処理施設整備事業発注件数の減少等による経営環境の大幅な変化により、会員会社では環境関連事業の見直しに伴い、本会からの退会や組織変更及び理事・委員等の交代が、例年になく多く行

われた。

新日本製鐵(株)は環境部門の会社分割により 7 月 1 日付で新日鉄エンジニアリング(株)が、川崎重工業(株)は同じく 10 月 1 日付でカワサキ環境エンジニアリング(株)が、JFEエンジニアリング(株)は同じく 10 月 1 日付で JFE 環境ソリューションズ(株)が、住友重機械工業(株)は同じく住友重機械エンバイロメント(株)が、また、アタカ工業(株)は会社合併により 10 月 1 日付でアタカ大機(株)が、それぞれの本会正会員資格を継承した。

一方、企画運営委員長は、4 月 27 日の委員会において、松村史朗氏(株タクマ)から阿部幸生氏(カワサキ環境エンジニアリング(株))に、また、技術委員長は 7 月 13 日の委員会において、玉出善紀氏(株タクマ)から長田守弘氏(新日鉄エンジニアリング(株))にそれぞれ交代した。

なお、平成 19 年度は役員・委員等の改選期にあたるが、平成 19 年 1 月現在の会員会社、役員等の名簿を別掲した。

4 交付金交付要綱等を通知、地域計画は人口 37.5%をカバー

環境省は各都道府県知事宛に平成 18 年 4 月 24 日付環廃対発第 060424001 号で「循環型社会形成推進交付金交付要綱について」を、環廃対発第 060424002 号で「循環型社会形成推進交付金交付要綱の取扱いについて」を通知し、交付金の対象事業や交付取扱要領を通知した。

平成 18 年 2 月 5 日現在、交付金による循環型社会形成推進地域計画の承認済み地域は、山梨、奈良、徳島の 3 県を除く、44 都道府県内の 167 地域となっている。この地域の人口は、我国の総人口の 37.5%となる。

5 環境省が入札・契約の手引きを作成し、公表

環境省は委員会(座長：北海道大学真柄泰基教授)を設けて、廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約について検討を行ってきたが、平成 18 年 7 月 18 日付で、その具体的な見直し・改善の方向性を提示した手引きを公表した。

手引きの概要は、①競争性の向上では「総合評価落札方式の導入」、②予定価格の適正化では「費用積算のためのデータベースの構築」、③建設コンサルタントの発注・選定の適正化では「公募型プロポーザル方式の提示」、④市町村間の相互協力の強化では「公正・中立な、また、高い技術力を有する専門家集団の組織化による市町村支援体制の構築」等となっている。

6 自民党へ予算及び税制改正を要望

当工業会は自由民主党環境部会及び環境関係団体委員会宛に平成18年11月9日付で、平成19年度予算及び税制改正に関する要望書を提出した。

平成19年度予算については「循環型社会形成推進交付金及び廃棄物処理施設における温暖化対策費(石油特会)」の確保と充実を以下の項目について要望した。

- ①高効率原燃料回収施設(バイオガス化施設)の推進
- ②地球温暖化対策のためのエネルギー回収能力の増強
- ③漂着ごみ対応のための処理施設の増強
- ④地域のバイオマス利用促進
- ⑤ごみ発電ネットワーク事業等

同時に、以下の項目について平成19年度税制改正に関する要望を行った。

I 国税

1. 産業廃棄物処理設備(高温焼却装置、ばい煙処理用装置)に係る特別償却措置の延長
(所得税・法人税)
2. 減価償却制度の抜本的な見直し
(所得税・法人税)

II 地方税

1. PFI選定事業者が設置する一般廃棄物処理施設に係る課税標準の特例措置の延長
(不動産取得税・固定資産税・都市計画税)
2. アスベスト含有廃棄物の無害化処理の用に供する施設に係る課税標準の特例措置の創設
(固定資産税)

3. 減価償却制度の抜本的な見直し

(事業税・固定資産税)

【参考】自由民主党は、平成18年12月14日付で税制改正の主要項目について基本的な考え方をまとめた平成19年度税制改正大綱を発表し、今後、税体系の抜本的改革の実現に取り組んで行くとしている。

<http://www.jimin.jp/jimin/seisaku/2006/pdf/seisaku-030a.pdf>

なお、平成19年度廃棄物関係予算政府案については、本文を参照されたい。

7 廃棄物施策懇話会の開催

当工業会は、国の廃棄物施策の最新情報を勉強するため環境省トップの話聞く講話会を開催した。平成18年8月10日に、廃棄物対策課松澤課長補佐に「循環型社会形成への展望」と題して廃棄物処理の現状と課題、交付金、国際3Rへの対応、将来への方向性について講演をいただき、会員会社から35名が聴講した。

また、12月21日には、廃棄物・リサイクル対策部由田部長に「循環型社会を目指して、我が国からアジアへ世界へ」と題した講演をいただき、会員会社から25名が聴講した。

8 国際環境セミナーを開催

当工業会国際環境整備研究委員会のセミナー・対外協力小委員会は平成18年3月3日(財)日本産業廃棄物処理振興センター会議室において、平成17年度国際環境セミナーを開催した。長田守弘氏(新日本製鐵株)から「中国科学院工程熱物理研究所主催北京国際会議について」、河窪義男氏(アタカ工業株)から「第12回海外(USA)環境事情調査団について」、藤吉秀昭氏((財)日本環境衛生センター理事)から「わが国の廃棄物処理技術の総括と海外技術移転の課題」と題した講演をいただき、会員会社等から30名が参加した。

また、12月11日に同センター会議室において、平成18年度国際環境セミナーを開催し、玉出善紀氏(株タクマ)から「廃棄物問題とタク



国際環境セミナーで講演する各氏、左より長田守弘氏、藤吉秀昭氏、河窪義男氏

マの国際的対応」及び澤地 實氏（(社)海外環境協力センター技術主幹）から「我国の廃棄物関連技術と国際的対応」と題した講演をいただき、同じく30名が参加した。

なお、平成9年6月から9年余の永きにわたり国際環境整備研究委員会の委員長として、同委員会の事業活動に尽力された萩原 均氏（元石川島播磨重工業株）が9月30日に退任し、後任の委員長として佐川利喜雄氏（極東開発工業株）が選任された。



国際環境セミナーで講演する
玉出善紀氏（左）と澤地實氏

9 ベトナムに調査団を派遣

国際環境整備研究委員会参加会社の社員等10名からなる国際環境事情調査団は、萩原委員長を団長として、3月7日成田を出発、ベトナムの首都ハノイに滞在し、ベトナム天然資源環境省、環境技術研究所、ハノイ都市環境公社、ハノイ下水排水公社等を訪問、調査を行い、3月12日帰国した。（本文参照）

調査団は、現地滞在中のJICAエキスパート前田泰昭氏、山本充弘氏、二松雅之氏、及びエバラベトナムの岩田 勉氏の協力を得て、多くの成果を得ることができた。

10 会員がウエステック大賞 2006 を受賞

ウエステック大賞2006審査委員会（審査委員長 小林康彦（財）日本環境衛生センター理事長）は環境大臣賞2件、審査委員長特別賞2件、部門賞6件の受賞者を選考し、8月29日に表彰式が行おこなわれた。工業会会員では、石川島播

磨重工業株の「一般廃棄物炭化燃料化システム」が新技術部門賞を、三機工業株の「JS式水冷ストーカシステム」がプラント部門賞を受賞した。（本文参照）

なお、環境大臣賞は株伊藤園の「茶殻リサイクルシステム」と東洋インキ製造株の「オフセットインキ缶リユースシステム『東洋MPエコサイクル（TME）システム』」が受賞した。

今年のウエステック2006廃棄物処理・再資源化展は、8月29日から9月1日の間、パシフィコ横浜で開催された。

11 環境大臣表彰

当工業会の推薦によって、10月31日平成18年度環境大臣表彰を受けた技術委員長の長田守弘氏（新日鉄エンジニアリング株）及び企画運営副委員長の海老沢元勝氏（ユニチカ株）が12月6日に受賞の報告と御礼のため環境省由田磨

廃棄物リサイクル対策部長室で歓談する（右より）海老澤氏、長田氏、環境省由田部長、関課長、当工業会木下専務理事、井上事務局長



棄物・リサイクル対策部長を訪問、歓談した。
（本文参照）

また、両氏には、11月16日の企画・技術合同委員会において、当工業会森下副会長から工業会のお祝い品が贈呈された。

12 関係団体の委員及び講師等の委嘱依頼に対する協力

1 環境省環境調査研究所

- ・平成18年度廃棄物・リサイクル専攻別研修Ⅱ（計画コース）講師

長田守弘氏（新日鉄エンジニアリング㈱）

2（財）日本産業廃棄物処理振興センター

- ・平成18年度産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会講師
川口 一氏（㈱荏原製作所）、永田敦士氏（カワサキ環境エンジニアリング㈱）、下山正夫氏（同）、鈴木康夫氏（JFE環境ソリューションズ㈱）、藤井重雄氏（㈱タクマ）、河本達志氏（同）、塚原正徳氏（日立造船㈱）以上7氏

3（財）日本環境衛生センター

- ・平成18年度廃棄物処理施設技術管理者講習会講師

大原雄治氏（石川島播磨重工業㈱）、海野正明氏（㈱荏原製作所）、川口 一氏（同）、竹野勝彦氏（同）、盛下 学氏（同）、佐藤義広氏（カワサキ環境エンジニアリング㈱）、中川圭介氏（同）、永田敦士氏（同）、関口准司氏（㈱川崎技研）、堀本 昇氏（極東開発工業㈱）、矢野 宏氏（㈱クボタ）、大音 清氏（㈱栗本鐵工所）、阿部盛一氏

（JFEエンジニアリング㈱）、鈴木康夫氏（同）、塚腰雅友氏（同）、野村卓郎氏（同）、山本芳宏氏（㈱神鋼環境ソリューション）、森 康彦氏（新日鉄エンジニアリング㈱）、井上 護氏（新明和工業㈱）、竹田久人氏（住友重機械工業㈱）、佐藤誠二氏（㈱タクマ）、藤井重雄氏（同）、塚原正徳氏（日立造船㈱）、和田清美氏（富士電機システムズ㈱）、倉島 啓氏（三井造船㈱）以上25氏

- ・平成18年度技術管理者等ブロック別研修会講師

河窪義男氏（アタカ大機工業㈱）、竹野勝彦氏（㈱荏原製作所）、澁谷榮一氏（JFE環境ソリューションズ㈱）、長田守弘氏（新日鉄エンジニアリング㈱）、竹田久人氏（住友重機械工業㈱）、玉出善紀氏（㈱タクマ）、森川則三氏（㈱西原環境テクノロジー）、塚原正徳氏（日立造船㈱）以上8氏

4 中央労働災害防止協会

- ・ダイオキシン類業務に係る作業指揮者養成研修会講師

札本泰克氏（石川島播磨重工業㈱）、香西幸男氏（カワサキ環境エンジニアリング㈱）、澁谷榮一氏（JFE環境ソリューションズ㈱）、三野禎男氏（日立造船㈱）

- ・ダイオキシン類作業従事者特別教育インストラクターコース講師

玉出善紀氏（㈱タクマ）、浅田信二（ユニチカ㈱）